



日本共産党北区議会議員

さがらとしこ

区政レポート

日本共産党議員団

2016.6.28. No.1413.

ご相談はお気軽に

TEL とも 3905-0970

FAX とも

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

先週号では、都営桐ヶ丘団地6期計画概要について、北区と東京都の資料をもとにご報告しました。その後から、いろいろと質問がよせられたり、ご意見、ご要望もいただきました。ありがとうございます。

今号では、準備がととのいませんので、あらかじめ、特集号を出したいと思っております。少時間と下さい。

NHK朝ドラ「とと姉ちゃん」、目がはなせませんね。

「納得できない仕事をするのは耐えられない」

とヒロインの祖母、材木問屋 青柳商店の女将(おゆみ)の言葉です。1941年(昭16)に材木統制法が施行され、翌年には材木屋は廃業、問屋や仲買組合も解散へ。



「緊急事態」条項は、政府命令で人権の抑圧

これだけ似ている 明治憲法と自民改憲案の「緊急事態」規定		
	明治憲法(8条、70条)	自民改憲案(98、99条)
主体	天皇	内閣総理大臣
国会無視	法律に代わる勅令を発する	内閣が法律と同じ効力の政令を制定
財政	勅令で財政処分ができる	総理大臣は財政処分ができる
緊急事態	公共の安全の保持が必要な場合(無限定)	外部からの武力攻撃、内乱等、地震等その他法律で定める事態(無限定)

安倍首相は選挙後に改憲に着手したいと一自民改憲案をもとに。



お母さんは、苦んで200年ついた老舗の看板を下ろします。

●廃業が軍の統制下に入るのをせまられ、軍への協力を拒む。

勇気、誇りをふるいたせての決断です。

●歴史家の江口圭一氏は、愚劣かつ無謀な戦争を遂行するために、「自国の一企業を取りつがす」となど、意に介さなから日本国家の粗暴」と告発しました。

「野党の経済政策は反対だけ」(首相)

子育て、雇用へと、豊かにひろがる

野党の共通政策

首相のいう「野党はアベノミクス反対だけ」は、まったくのデタラメです。野党4党の共通政策をごらんください。野党が勝てば、新しい政治の扉がひらきます。

強権政治を許さない

原発

原発に依存しない社会の実現に向けた地域分散型エネルギーの推進

沖縄

沖縄の民意を無視した辺野古新基地建設の中止

TPP

TPP合意に反対



労働

長時間労働の規制、均等待遇と同一価値労働同一賃金、最低賃金の大幅引き上げ

アベノミクスによる国民生活の破壊、格差と貧困を是正する

被災地

住宅再建支援金を500万円に引き上げ

教育

高校完全無償化、給付制奨学金の創設、奨学金債務の減免

保育・介護

介護・福祉職員、保育士の給与引き上げ。ひとり親家庭にたいする児童扶養手当の増額

個人の尊厳

男女賃金格差の是正、選択的夫婦別姓の実現、性暴力被害者支援法の制定、LGBT(性的マイノリティー)差別解消など

大義は野党共闘に 政権の攻撃



作家 あさの あつこさん

参院選で実現した野党共闘は、立憲主義をこわして安本法を通した安倍政権に対して、有効な手だてだと思えます。よくぞ手を結んでくれた、これしかない、頑張った結果をだしてほしいと願っています。

野党のなかには、政策の違いがあります。しかし、「国を強くする」というような立場でなく、どうすれば国民が幸せに暮らせるかという立場で、ぶつかりあひながら一つにまとまっていく。それがむしろ当然ではないでしょうか。「野合」という



同志社大学大学院教授 岡野 八代さん

安倍首相の野党共闘攻撃は、市民の運動に対する侮辱ですよ。

安保法制の強行をめくり、危機感から「野党は共闘」の声を上げたのは市民です。学者の会、シールズ、ママの会も毎週のように議論し、街頭に出ました。「市民革命」と呼ぶ人がいるように、戦後の日本の歴史でもなかったようなうねりが起きました。

その声を受けて、日本共産党の志位委員長が、戦争法廃止の「国民連合政府」をよびかけ、

市民運動に対する侮辱

参院選1人区区はほとんどで党の候補者を降ろしたのは英断だったと思います。安倍首相らが野党共闘を攻撃するのは、この市民の声に押しされた野党共闘の成功がよほど怖いからでしょう。まさか32の参院選1人区すべてで野党共闘が実現するなどは、思ってもいなかったでしょう。私も、急激な変化に驚いています。それにしても「民進党には、もれなく共産党がついてきます」と言う安倍首相にはあきれました。「共産党」と言えば市民が分断できるという感覚は信じられません。安倍政権に「改憲のフリーハンド」は与えない、「政治は私たちの手を変えられる」という市民運動の流れは止められない。そういう結果を参院選でぜひ出したいと思えます。

一色に染まる自公怖い

批判はおかしい。野党共闘を批判するのは、非常にやっかい、じまなものだと思います。むしろ、一色に染まった安倍自公政権の方が怖い。政権の中にも批判する勢力が必要です。でも、いまの与党のなかで異を唱える人がなく、みんな同じ。ぶつかりあった形跡がない。自浄作用を失っていると思うんです。余裕のまったくないひとり親家庭の子どもなど、困難な暮らしを余儀なくされる人々の実態を知ってほしい。原発や沖繩新基地反対の声に耳を傾けるべきです。野党共闘の勝利で、安倍政権に立ち向かってほしい。やむを得ないで、国民が幸せに暮らせる国や社会だと実感できるころまでですすんでほしい。

「選挙に行こう」「野党はがんばれ」とコールする人たち=19日、東京・有楽町駅前

2016.6.28 「さがらレポート」NO.1413.

